

(イベントのお知らせ)

ことうら夏の夢まつり「白鳳祭」

○と き：平成 24 年 8 月 5 日 (日) 16:00～

○ところ：琴浦町東伯総合公園



☆キャンドルイルミネーション (18:30 点灯)

☆レーザーライト・花火ショー (20:30～21:00)

☆琴浦あごカツレーグランプリ in 白鳳祭

(17:00～20:00 販売)

などなど、さまざまなイベントがあります♪

(イベントのお知らせ) トーク&ミュージック

小泉八雲とアイルランド伝統音楽の世界

○と き：平成 24 年 9 月 8 日 (土) 17:00 開演

○ところ：原酒造酒蔵跡地

○参加費：1,000 円 (1ドリンク代含む)

☆トーク 小泉 凡

「アイルランドと小泉八雲

—妖精と語りの世界から授かったもの—

☆ミュージック 小泉 凡・アイルランド伝統音楽バンド

♪トーク終了後食事をしながら音楽を楽しもう!

申込：琴浦町観光協会 55-7811 (先着 80 名様限り)



(遊泳期間のお知らせ) 八橋海水浴場



7 月 14 日 (土)、八橋海水浴場
海開き式が行われ、安全を祈願し
て神事が執り行われました。

遊泳期間：7 月 21 日 (土)～8 月 10 日 (金)

「琴浦さん」名刺販売中!!

今年の 4 月号より「広報ことうら」に連載中の「琴浦さん」の特別編はご
覧になっていますか?

琴浦町ではマンガ「琴浦さん」とのタイアップ事業を行っており、7 月より
「琴浦さん」のイラストと琴浦町を PR するメッセージが入った名刺の販売を
開始しました!!

価格：1 箱 (100 枚入り) 500 円 (以下の 10 種類と全種類入りがあります。)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ①琴浦町はグルメの王国です | ②琴浦町は海の幸の宝庫です |
| ③琴浦町はおいしい牛乳のふるさとです | ④琴浦町は日韓交流の拠点です |
| ⑤琴浦町は太平記の舞台です | ⑥琴浦町は名峰・大山の麓です |
| ⑦琴浦町は大地の恵みが豊かです | ⑧琴浦町は白鳳文化の伝承地です |
| ⑨琴浦町は介護予防の先進地です | ⑩琴浦町は 10 秒の愛を実践しています |
| ⑪全種類 10 枚ずつ合計 100 枚 | ※①～⑩は 1 箱 100 枚ずつ |

※購入後、各自、印刷業者等で名入れをしていただく必要があります。

販売場所：琴浦町観光協会

琴浦町赤碕 1140-1 琴浦町役場分庁舎 (商工観光課内)



まるごとまんが得々バスツアー

8月～11月 毎週日曜日運行 (1,500円)

☆☆☆ツアースケジュール☆☆☆

9:40 倉吉駅出発
 北栄町 青山剛昌ふるさと館
 琴浦町 (昼食)あごカツカレー▶「琴浦さん」オリジナル卓上飾り付
 湯梨浜町 美人!美タミン!天女のフルーツ試食
 三朝町 やなせたかしの世界展(8月まで)
 or まんが図書館&三朝温泉街散策(9月～)
 倉吉市 白壁土蔵群・赤瓦散策・
 赤瓦八号館 お菓子の寅蔵(9月16日～23日以外)
 or とっとりまんがドリームワールド(9月16日～23日)
 15:35 倉吉駅着

申込:(株)農協観光 鳥取支店 TEL:0857-26-0602



会 員 募 集

琴浦町観光協会では、会員を募集しています。協会は会員の皆様の年会費によって事業を行っています。個人・団体・企業など、どなたでも加入できます。

協会へ加入いただき、琴浦町の観光事業に協力をお願いします。年会費は、1口1,000円で、個人は1口以上、企業・団体は3口以上です。

詳細は琴浦町観光協会へお問い合わせ下さい。



波止のまつり協賛金について

(御礼)

毎年7月27日に開催している「波止のまつり」の花火打上やイベントは、皆様からの協賛金によって行っております。今年も町内外の企業・団体・個人の方など、たくさんの方にご協賛いただき、昨年より多い合計321件、2,552,720円の協賛金が集まりました。ご協力、本当にありがとうございました。

「江戸から昔ばなし」『菊姫物語』②

松江のお城での生活のような華やかさはないものの、菊姫は数年前の不幸をも忘れて平和に暮らしていました。

それから二十年ほど後のこと、江戸に大火事があり、鳥取藩の殿様のお屋敷や、侍たちの住まいも、すっかり焼けてしまいました。

鳥取藩は、赤崎の河本家に白羽の矢を立てて、材木を江戸に運ぶように命令しました。

夫はすでに亡くなっていましたので、菊姫の子の長兵衛は、この大役を引き受け、早速大きな船を三隻買い入れ、港も立派に造り直して、材木を江戸へ運ぶ事業にとりかかりました。

しかし、間もなく、息子の長兵衛は過労のため亡くなり、孫の弥四郎が後を引き継ぎました。

たくさんの方の材木を運び出す仕事で、港の辺りはにわかには活気づき、大勢の人夫や船頭達でごった返しました。

「おーい、お前は今日も仕事かい」
 「おう、ありがたいこった。」

毎日お駄賃が頂けるのう
 「これも、みんな菊姫さまのおかげじゃわい」

それまで静かだった漁師の町が、まるで、都のように賑わいました。

(つづく)

『ODで楽しむあかさき昔ばなし』より

